

されど山城大和などは、何となく聲いやしく、詞もいやしきこと多し、いはゆる吳服物、小間物のたぐひ、松坂はよき品を用ひて、山田津などは、こよなく代物よし、されば商人の京よりしいる、も、松坂はことに物よく上々の品なり、京のあき人つねに來かよふなり、時々のはやり物もをり過ぎず、諸藝は所がらにあはせては、よきこともあらず、もろくの細工いと上手なり、あきなひごとにぎは、し、芝居、見せ物、神社、佛閣、すべてにぎは、し、すべて此國は、他國の人おほく入こむ國なる故に、よからぬ物もおほく、盜なども多し、松坂は魚類、野菜など、すべてゆたかなり、されど、魚には鯉、鮒、すくなく、野菜にはくわゐる、蓮根など、すくなし、松坂のあかぬ事は、町筋の正しからずしどけなきと、船のかよはぬとなり、

志摩國

志摩國ハ、シマノクニト云フ、東海道ノ一國ニシテ、西ハ伊勢ニ接シ、東及ビ南北ノ三面ハ海ニ臨ム、東西凡ソ三里、南北凡ソ七里アリ、此國ハ、古ヘ國府ヲ英虞郡ニ置キ、答志、英虞ノ二郡ヲ管シ、延喜ノ制、下國ニ列ス、明治維新ノ後、二郡ヲ合セテ志摩ノ一郡トナシ、三重縣ヲシテ之ヲ治セシム、

名稱

〔倭名類聚抄五〕志摩之
國郡志摩之

〔易林本節用集下〕志摩志 四方半日、一郡志州合爲一國、海藻多、下々國也、答志、英虞府、甕島、此内一郡

伊勢也、

〔古事記上〕於是送猿田毘古神而還到、乃悉追聚鱒、廣物鱒、狹物以問、言汝者天神御子仕奉耶之時、諸魚皆仕奉白之中、海鼠不白、爾天宇受賣命謂海鼠云、此口乎不答之口而、以紐小刀拆其口、故於今海